女

一年　画数 3
筆順 ノ 女 女
オン ジョ・ニョ・ニョウ
クン おんな・め

成り立ち

〝女〟のひとが、りょうてをまえにかさねて、しとやかにすわっているかたちをあらわした字で、〝おんな〟といういみをあらわしたものです。

また、〝むすめ〟〝おんなのこ〟といういみにもつかわれます。〝長女（いちばんうえのむすめ）〟〝二女（二ばんめのむすめ）〟というつかいかたがこれです。（対「男」）

〔漢音と呉音〕

漢字には漢音と呉音とがある。漢音は中国と正式の国交が結ばれ、漢字の標準音が入ってから使われるようになったものである。それ以前は呉地方の方言が入って、我が国にねづいていました。それで呉音という。古い言葉は呉音、新しい言葉は漢音と思ってください。

使い方

▽女の人のことを〝女性〟といういいかたをすることがありますが、むかしは〝女性〟といういいかたをしていました。まえのよみかたを漢音、あとのよみかたを呉音といいます。

熟語例

▽女流（げいじゅつなどでかつやくしている女性をいうときにつかいます。例女流作家）
▽女優（女の俳優のこと。）
▽天女（天にすむ女神）
▽女神（女の神さま。〝女神〟というよみかたもあります。）
▽才女（才能のすぐれた女性）
▽女房（じぶんのおくさんのこと。むかしは、天子につかえる女官のことをいいました。）
▽女官（女性の官吏。〝官女〟ともいいます。）

参考

▽〝女性〟のように、漢音でも呉音でもよめることばがありますが、おおくは、〝天女〟〝女房〟〝才女〟のようによみかたがきまっています。

小

一年　画数 3
筆順 丨 小 小
オン ショウ
クン ちい＝さい・こ・お

成り立ち

ひとつのもの（丨）を〝わける（八）〟ことをあらわした字で、「ものを〝ちいさくする〟こと」をあらわしたものです。「ちいさくする」こと。また、「ちいさい」こと。「わずかなもの」「つまらないもの」や、「おさない」といういみにもつかいます。

また、〝小生〟のように、「じぶんをへりくだっていう」ときにもつかいます。

使い方

▽からだが小さいからといって小川くんを〝小ばか〟にすると、ひどいめにあいますよ。
▽「大は小をかねる」といいます。うつわの大小はどうでもよろしい。

熟語例

▽小ばか（〝小〟はばかにしたきもちをあらわすことば。〝小りこう〟の〝小〟もおなじです。）
▽大小（〝大きさ〟ということ。中国では、はんたいのことばをかさねるしゅうかんがあります。〝長さ〟のことを〝長短〟、〝重さ〟のことを〝軽重〟といいます。）
▽大同小異（わずかなちがいはあるが、大たいは同じである、ということ。小異はわずかなちがい）
▽小公子（おさない公子。公子はきぞくの子）
▽小人（①こころのいやしい、つまらない人。②みぶんのひくい人）

特別な使い方

▽小豆（あずきは豆のなかまですが、大豆という豆にくらべて小さいので、〝小豆〟とかきます。）